

東北地方 1か月予報

(9月23日から10月22日までの天候見通し)

平成18年9月22日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

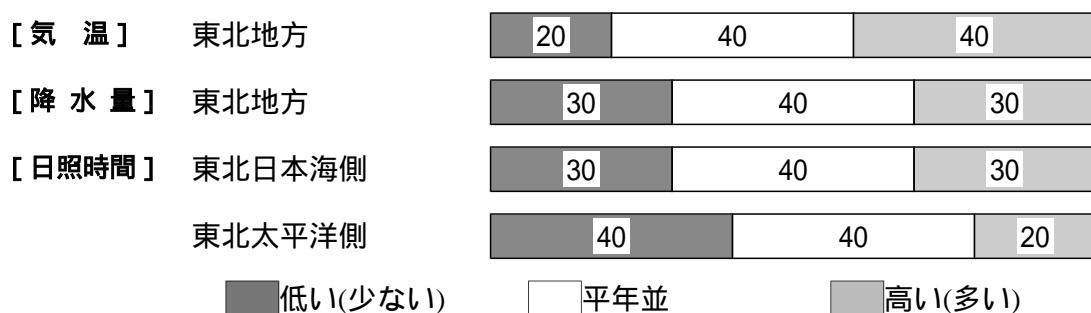
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

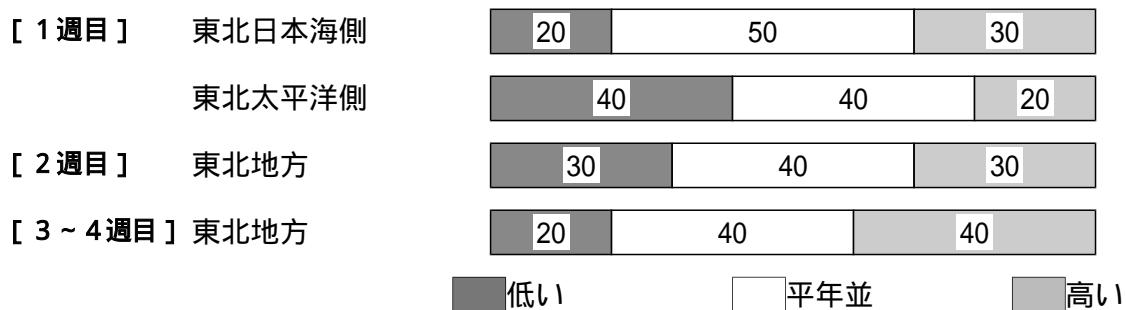
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並か高い、降水量は東北地方で平年並、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か低い、2週目は東北地方で平年並、3~4週目は東北地方で平年並か高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 9月23日(土) ~ 10月22日(日)

1週目 : 9月23日(土) ~ 9月29日(金)

2週目 : 9月30日(土) ~ 10月6日(金)

3~4週目 : 10月7日(土) ~ 10月20日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は9月29日

3か月予報: 9月25日(月) 14時

寒候期予報: 9月25日(月) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	14.3	95.5	156.0	16.9	15.3	13.0
深浦	15.0	158.5	142.2	17.3	15.8	13.8
むつ	13.9	123.5	158.6	16.2	14.8	12.7
八戸	14.4	84.8	156.5	16.8	15.3	13.2
秋田	15.3	146.1	150.4	17.8	16.3	14.0
盛岡	13.6	96.6	143.3	16.2	14.6	12.2
大船渡	15.3	159.8	137.4	17.5	16.2	14.2
宮古	14.7	140.2	144.9	16.8	15.5	13.5
仙台	16.4	133.9	138.4	18.6	17.3	15.3
石巻	15.8	120.2	147.5	18.1	16.7	14.7
山形	15.0	82.9	126.0	17.5	16.0	13.7
新庄	14.2	135.6	105.7	16.8	15.2	12.8
酒田	16.3	159.5	143.9	18.6	17.2	15.1
福島	16.4	117.7	127.5	18.7	17.4	15.2
若松	15.1	84.7	115.4	17.6	16.1	13.7
白河	14.8	135.8	127.4	17.0	15.7	13.6
小名浜	17.5	176.8	139.1	19.5	18.4	16.5

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5 ~ +0.2	77 ~ 109	95 ~ 106
東北日本海側	-0.6 ~ +0.2	81 ~ 115	94 ~ 106
東北太平洋側	-0.5 ~ +0.2	72 ~ 112	95 ~ 107

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.5 ~ +0.4	-0.6 ~ +0.5	-0.5 ~ +0.5
東北日本海側	-0.6 ~ +0.4	-0.5 ~ +0.5	-0.6 ~ +0.5
東北太平洋側	-0.5 ~ +0.4	-0.5 ~ +0.5	-0.5 ~ +0.5

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年9月22日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(9月23日~10月22日) :

天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(9月23日~9月29日) :

期間のはじめと終わりは、高気圧に覆われて晴れますが、期間の中頃にかけては、気圧の谷や湿った東風の影響で曇りの日があるでしょう。

平均気温は東北日本海側では平年並、東北太平洋側では平年並か低いでしょう。

2週目(9月30日~10月6日) :

天気は数日の周期で変化するでしょう。東北地方は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(10月7日~10月20日) :

天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

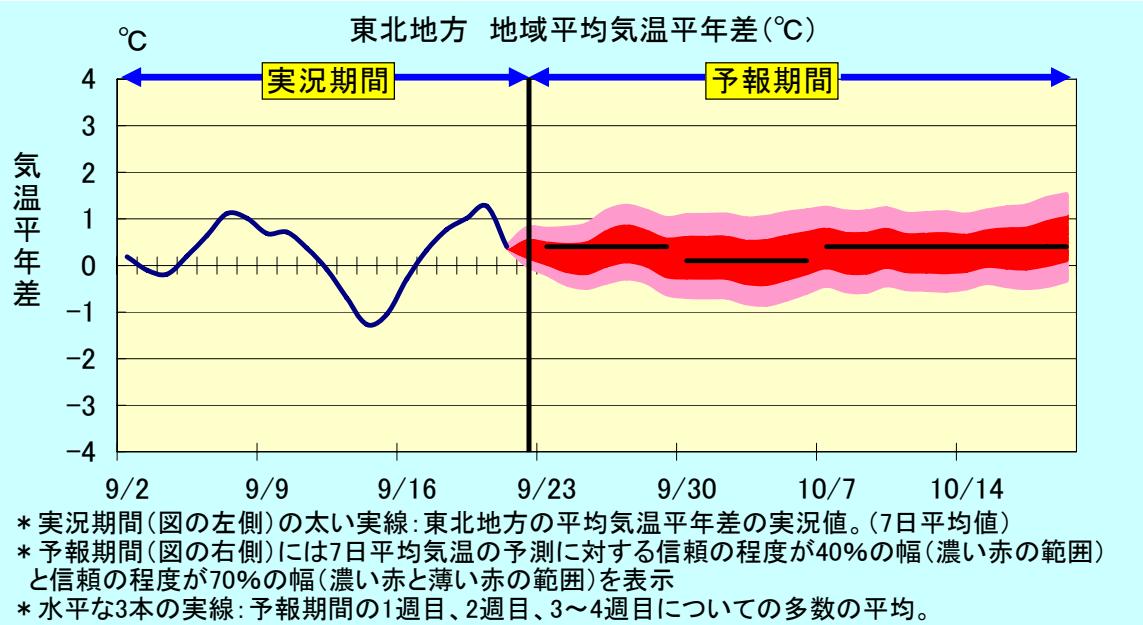
平均気温は平年並か高いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	13.5日	3.1日	3.7日	6.7日
東北太平洋側	14.8日	3.3日	3.7日	7.8日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目いずれも「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から、1週目の東北太平洋側を「平年並か低い」、3~4週目の東北地方を「平年並か高い」とする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

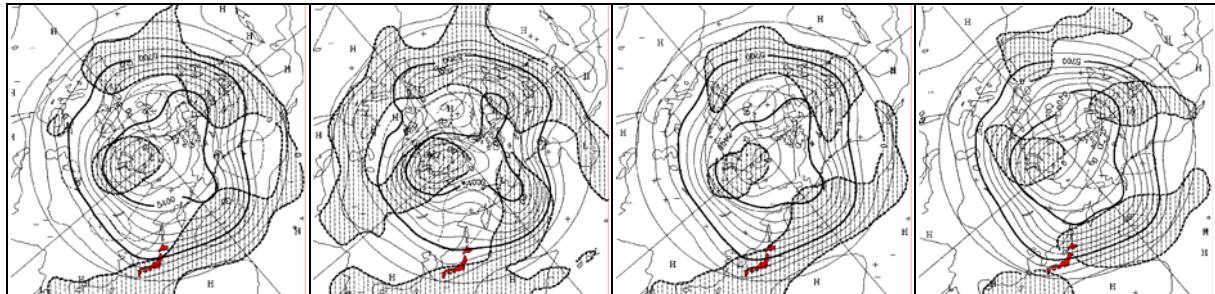


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、シベリアから中国大陸、北日本にかけて正偏差、一方、太平洋中緯度域、東日本以南から太平洋西部熱帯域にかけて負偏差。期間を通して太平洋高気圧の西への張り出しが弱い。

1週目は、東シベリアからオホーツク海、中国北東部にかけて明瞭な正偏差。一方、東日本から太平洋西部熱帯域は負偏差。2週目は、太平洋中部から日本付近、太平洋西部熱帯域は負偏差。3~4週目は、ひきつづき、太平洋中部、太平洋西部熱帯域では負偏差。日本付近は正偏差のところが多い。



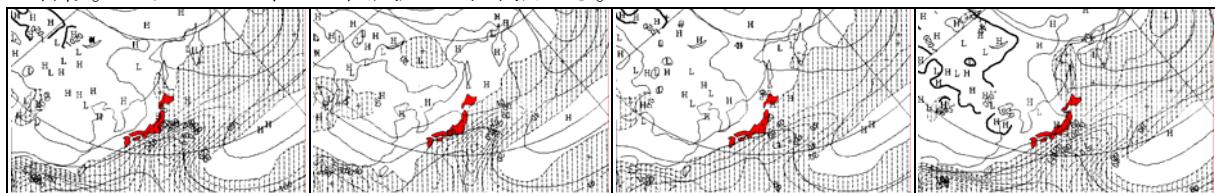
500 hPa 高度予想図（左から）1か月平均、1週目平均、2週目平均、3~4週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は1か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、日本の南東海上には低圧部が伸びる。明瞭な降水域が日本の南東海上に分布している。

1週目は、北に偏った高気圧が北日本まで張り出す。太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、日本の南東海上は低圧部で明瞭な降水域が分布。2週目は、引きつづき太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、日本の南東海上は低圧部で明瞭な降水域が分布。3~4週目は、2週目とほぼ同様の特徴。アリューシャンの低気圧がやや強まる。



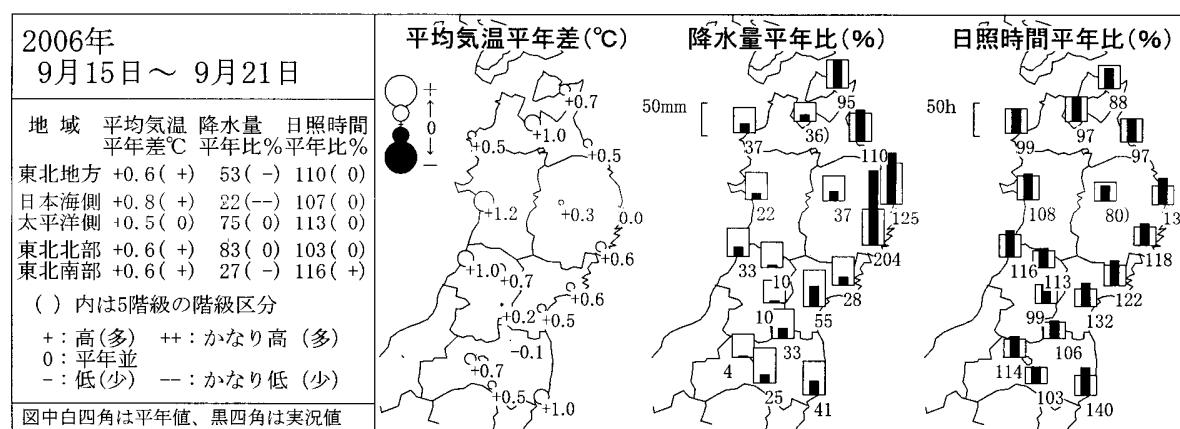
地上予想天気図（左から）1か月平均 1週目平均 2週目平均 3~4週目平均

実線：等圧線（間隔 4 hPa）、陰影部：降水域（1か月 80mm 以上、1週目・2週目 20mm 以上、3~4週目 40mm 以上）

4. 最近1週間（9月15日～9月21日）の天候の経過

この期間、台風第13号が日本海を北上した。16日から19日にかけて台風第13号と北に偏った高気圧の影響で曇や雨の日が多くあった。台風の北上に伴い、18日は東北太平洋側の沿岸部では大雨となった。また、フェーン現象により18日は東北日本海側、19日は東北太平洋側で気温が30度近くまで上昇した。20日以降は晴天が広がった。

平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

お知らせ

季節予報文（平文）の表現を変更します

仙 台 管 区 気 象 台

季節予報では、1か月、3か月、暖・寒候期の平均的な気温、降水量などを「高い（多い）」、「平年並」、「低い（少ない）」の3階級に分けて、それぞれの階級になる確率を予報しています。予報文には、この確率予報に加えて、予報期間内の天候の特徴および、確率の最も大きい「階級（2つの階級のこともあります）」を平文で記述しています。

この平文形式は平成14年から実施しておりますが、「階級」だけを記述し確率値を明示していなかったことから、確率予報である季節予報が断定的な予報であるかのような誤解を生じるようになりました。

そこで、季節予報を確率予報として正しく利用いただくため、下記のとおり平文に特徴のある階級とその確率値を記述することにいたします。

なお、変更は平文の表現のみで、3階級の確率予報表現の変更はありません。

記

1. 変更時期

平成18年9月25日以降に発表する全ての季節予報から。

2. 表現方法

- 確率50%以上の階級があるときは、階級と確率値を記述します。

【例】気温の3階級の確率が低い20%、平年並30%、高い50%の場合

現在の表現： 気温は高いでしょう。

新しい表現： 気温は高い確率50%です。

- 「平年並」と「高い（多い）」確率、または、「平年並」と「低い（少ない）」確率がともに40%のときは、2つの階級とその確率値を記述します。

【例】気温の3階級の確率が低い20%、平年並40%、高い40%の場合

現在の表現： 気温は平年並か高いでしょう。

新しい表現： 気温は平年並 または高い確率ともに40%です。

- 3階級の確率に目立った特徴がない（「平年並」の確率40%で「高い」と「低い」確率とともに30%など）とき、3階級の全ての確率値が等しい（3階級ともに33%）ときは、記述しません。

【例】気温の3階級の確率が低い30%、平年並40%、高い30%の場合

現在の表現： 気温は平年並でしょう。

新しい表現： 記述しません。

本件連絡先：仙台管区気象台技術部気候・調査課（022-297-8110）